

兵庫県西宮市

人口	480,818人
※こどもの人口	85,173人

1. 実証事業の概要

事業名		発達課題の分析等を通じた不登校予兆把握と早期支援
困難類型		不登校
体制	総括管理主体	教育委員会
	保有・管理主体	教育委員会、デジタル推進部、保健所、子供家庭支援課、障害福祉課、くらし支援課
	分析主体	PwCコンサルティング合同会社
背景・目的		全国での傾向と同様に、西宮市でも近年、不登校発生率が急増しており、不登校児童生徒の早期把握や支援が急務となっている。これまで心理状態の可視化や支援センターの設置等多面的な施策を進めてきたが、福祉・保健・教育のデータ連携が不十分で、支援の判断が属人的であるという課題があった。そこで、機械学習等を活用した分析モデルを構築し、誰一人取り残さない学びの環境を確立することを目指すこととした。
取組概要		「こども総合分析システム(仮称)」を開発し、校務支援システム、庁内システム、心理チェック「こころん・サーモ」のデータを統合して一次分析モデルを構築。このモデルを既存の「こころん・サーモ」システムに内蔵し、児童生徒画面には状況に応じた相談窓口を知ることができる「相談ボタン」を設置する。一方、教員画面で不登校の予兆があると考えられる児童生徒一覧を可視化することで、データに基づいた個別支援、支援の経過記録・共有を可能にする。これにより、継続的なモニタリングとEBPMのサイクルによる施策改善を図り、「誰一人残さない学び」のセーフティネットを本市内全域で機能させ、その知見を全国へ共有することを目指す。

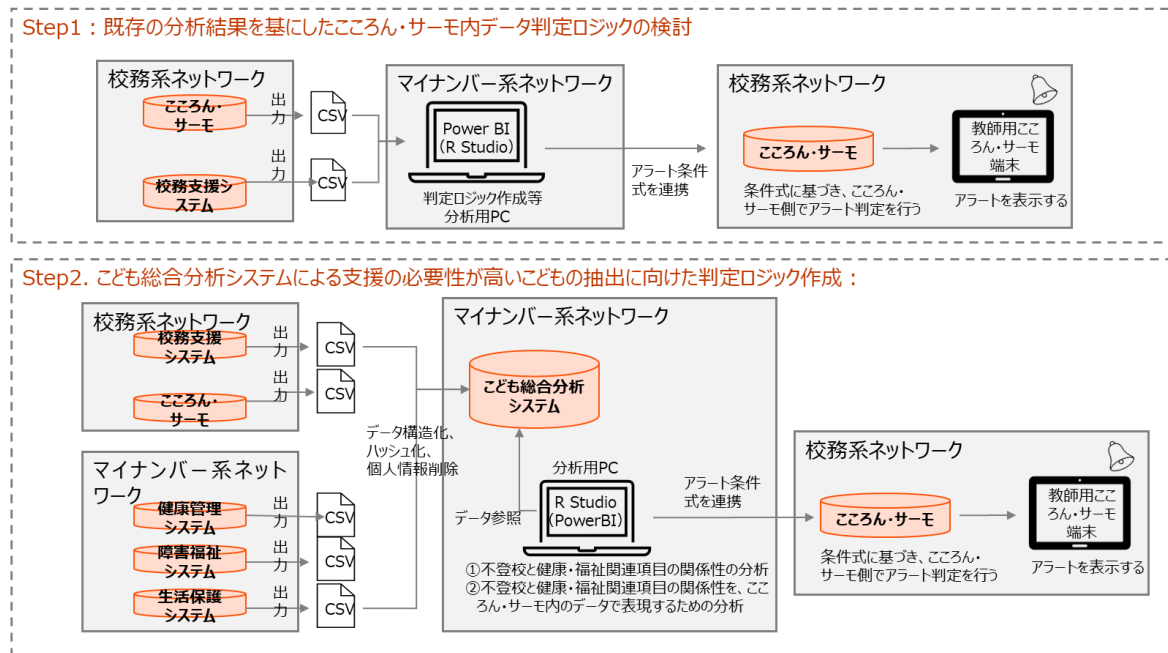
※人口は総務省 令和7年1月1日住民基本台帳年齢階級別人口(市区町村)(総計)を参照
※こどもの人口は0歳～19歳までを集計

兵庫県西宮市

2. 特徴的な取組および工夫点

① データ取得方法の検討

検討にあたっては、特にシステム構築に係る期間・工数・コスト面を考慮し、以下の図に示す連携方式とした。



工夫点

- 最終的に校務系ネットワーク内のこころん・サーモのみで、不登校の可能性のある児童生徒を発見し、通知できるようにしている。
- 実証校が従前より慣れ親しんでいる「こころん・サーモ」をベースにすることにより、現場の先生にとって活用しやすい仕組みとなっている。

苦労した点

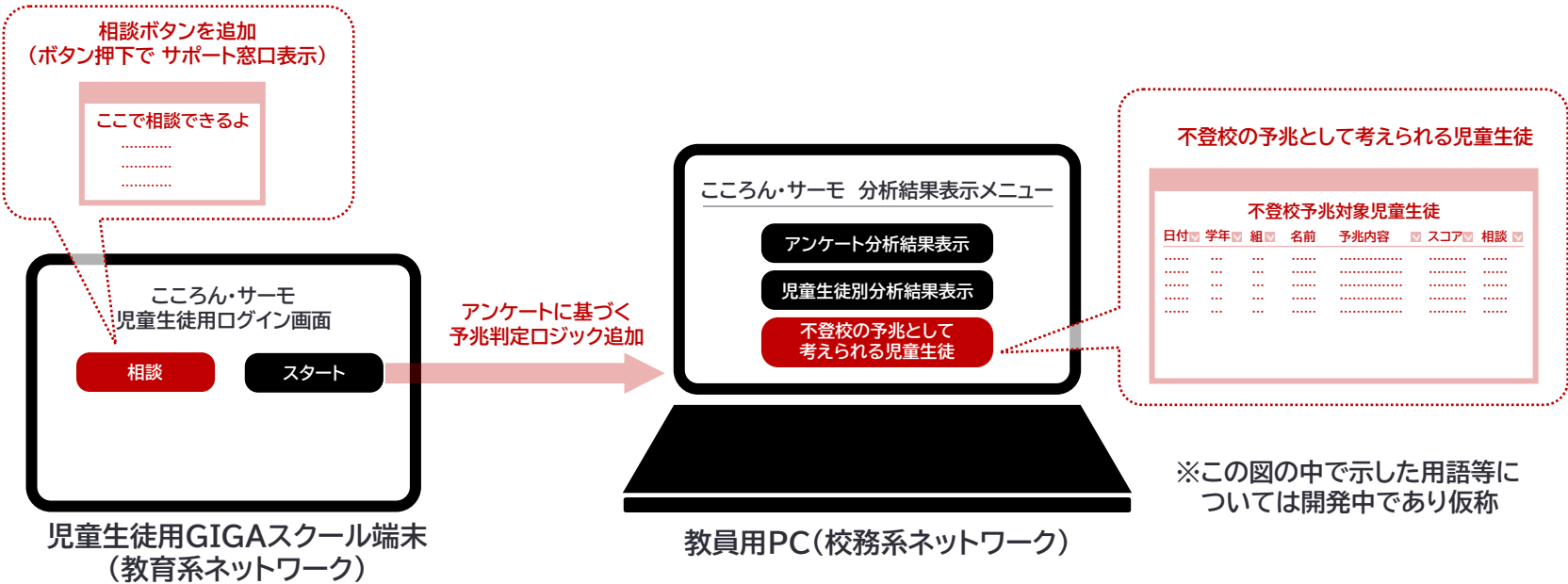
- マイナンバー系ネットワーク内にデータを所管する各課、システム構築事業者、学校関係者等、様々なステークホルダー間の調整に苦労した。各者には丁寧に説明することで最終的にご理解をいただいた。
- 校務系データの出力を学校・学年別を実施する必要があり、出力・結合のために多くの工数を要した。
- 分析環境の構築について、セキュリティ面を考慮しオフライン環境としたところ、分析に必要なソフト等のインストールができず、再度環境を構築して先にオンラインの状態では分析ツールを用意してから、オフライン状態とし、データ連携をし直す必要があった。

兵庫県西宮市

2. 特徴的な取組および工夫点

②不登校予兆における情報システムの構築

システムの構築にあたっては画面上に不登校の予兆として考えられる児童生徒の情報が表示されることを想定。



具体的な機能

- こころん・サーモのアンケート結果に応じて、「不登校の予兆として考えられる児童生徒(仮)」を通知。通知時には児童生徒情報、日付とスコア、予兆内容をリスト表示。
- 「不登校の予兆として考えられる児童生徒(仮)」には、教員が児童生徒の支援を行いやすいようなソート機能を搭載。
- 児童生徒が状況に応じた相談窓口を知ることができる「相談ボタン」を設置。
- システムを活用し、予兆等の児童生徒の状況を教員間で共有。



期待される効果

- これまで児童生徒の見守り・支援を教員の勘と経験を頼りに実施していたところへ「不登校の予兆として考えられる児童生徒(仮)」の情報が加わることで、更なる児童生徒理解と円滑な支援の実施につなげることが期待できる。
- 児童生徒の主観的な回答に、福祉・保健・教育等の多角的なデータを組み合わせることで、問題の潜在的な原因をより深く予測できる。これにより、状況に応じた多様なサポートの提供が可能になる。
- 児童生徒に必要な相談窓口の情報も伝わることから「援助希求的態度(相談する力)」の促進が期待できる。